

《八王子市長池公園の公園管理》

①多摩ニュータウンの自然核的な役割を担う自然保全型都市公園

長池は、一町歩（3000坪＝約1畝）あったといわれる別所の田畑を潤す水源であり、環境省に特定植物群落として指定されたハンノキ林を中心に特筆される自然環境が広がっており、八王子自然友の会の精力的な活動の成果、多摩ニュータウン開発による大規模な自然破壊の反動も加わり、計画段階から、関係者間で長池及び蓮生寺周辺的环境保全の意識が強く共有され、結果的に丘陵部の原地形をできるだけ残した公園（20畝）として保全整備された。住宅都市基盤整備公団（現都市再生機構）が公園を計画整備、竣工後は八王子市に移管される。

②里山保全についての意志表明と保全管理の実践

●「里山文化の継承と創造（UR計画）」をテーマに公園管理～里山保全を実施

- ★住民参加の里山活動による里山再生とコミュニティ形成
- ★ハンノキ林をはじめとした貴重な自然の保護・保全
- ★自然の恵みを積極的に利用したエコロジカルな公園

●公園開園前から里山活動（里山の保全管理ボランティア）を担う人材の組織化が図られ、開園後、体験ゾーンを拠点に里山活動（稲作・雑木林管理・畑作）が展開される。

●「雑木林更新～炭焼き」「落葉～堆肥化」等に象徴される一貫した資源・エネルギー循環の取り組み。

③積極的に展開される動植物の保全活動

●長池公園の植物種類数は、野生植物だけでほぼ790種に及ぶ（八王子市内全域の植物種類数は2217種「八王子市動植物目録2016による」）。常時、花パトロールにより植物の発生状況が記録されることで生育地や個体数増減のモニタリングが行われ、環境管理に反映される。個体数や生育地の少ない植物は積極的な増殖対策も行われ、2006年以降59種の国及び東京都レッドデータブック記載の植物が記録され、57種が現存、保全管理されている。

●環境省の里山モニタリング制度に登録し、哺乳類相、両生類相（ヤマアカガエル・アズマヒキガエル）、水環境（透明度、ph、流量）を定期的にモニタリングしている。

●外来種の積極的な防除

特定外来生物であるオオブタクサをはじめ、侵略性の高いワルナスビ、アメリカスミレサイシン、アレチヌスビトハギ等の植物の抜き取り、ウシガエルの卵塊駆除、アメリカザリガニの捕獲駆除、ブラックバス、ブルーギルの捕獲駆除等を定期的実施。

④NPOを主体にした柔軟な公園管理

NPO フュージョン長池を代表団体に、2社の造園会社、1社の電気設備会社を構成団体に、指定管理者「ひとまちみどり由木」が管理を受託。

団体の理念は《地域資源を活かし、公園の価値を最大化し、町の潤いと元気につなげていくこと》

- ・複数の業務を横断的にこなすマルチスタッフ
- ・リタイヤ世代が活躍する緑地管理パートスタッフ
- ・高度な樹木管理や草刈りは共同企業体の造園会社が実施
- ・公園及び施設清掃活動を障害者支援団体と協働実施
- ・公園アドプト団体（市公認の専属ボランティア団体）との里山環境の協働管理
- ・里山保全隊やサタデーパークボランティアによる里山保全管理体験活動
- ・個人で里山管理に携わるボランティア、里山サポーターの受け入れ
- ・小・中学校の学習支援で取り込まれる里山管理体験
- ・大学等教育機関インターンシップの積極的な受け入れによる里山管理体験
- ・企業CSR活動、その他ボランティアの積極的な受入

《長池公園年表（2017年4月現在まで）》

- 1820年：武蔵名勝図会（植田孟縉）に、『形長きゆえ、長池と号す。薬師堂より南の方、四、五町をへだてたり。長さ凡そ一町程。幅十間或は廿間もあり。沼池にて、「ぬなわ（ジュンサイ）」、または、「こうほね」などを生茂すること多し』との記述あり
- 1959年：南多摩文化財総合調査（東京都）の一環で、東京大学 本田正次氏による長池周辺の自然環境調査が実施され、ジュンサイ（現在は消滅）やサワギキョウなどの生育する長池の自然に対して、高い学術的評価と保全の妥当性が指摘される
- 1969年：横浜国立大学 宮脇昭らが「多摩ニュータウン開発地域の植生および景観管理の基礎的研究」を発表、長池に隣接して発達するハンノキ林の貴重性を報告
- 1970年：長池公園、由木公園として都市計画決定
- 1975年：日本住宅公団南多摩開発局が「多摩ニュータウン B-4 地区基本計画」を策定
- 1978年：「多摩ニュータウン B-4 地区蓮生寺・長池周辺保全整備計画」により、長池－蓮生寺－せせらぎ緑道を一体的に保全整備する構想が提示される
- 1978年：環境省が「別所のハンノキ林（特別保全ゾーン内）」を特定植物群落に指定
- 1984年：「多摩ニュータウン B-4 地区緑化空間整備のあり方に関する調査報告書」により、里山公園構想（多摩丘陵の里山を保全・活用する長池公園の基本コンセプト）が提示される
- 1988年：四谷見附橋、多摩ニュータウン地域に移設決定
- 1993年：長池見附橋が竣工
- 1993年：「多摩ニュータウン B-4 地区長池公園基本計画報告書」策定
- 1998年5月：都市基盤整備公団の試行的な活動として長池里山活動開始
- 2000年6月：「長池里山クラブ」会員418名で発足
（自然環境の保全、住民コミュニティの形成、市民の手による里山文化の育成継承）
- 2000年4月：長池公園開園（テーマ：里山文化の継承と創造）
- 2001年7月：自然館（長池ネイチャーセンター）オープン。「NPO フュージョン長池」が管理運営を受託。
- 2006年4月：「フュージョン長池公園」[NPO フュージョン長池・(株) 富士植木・(株) プレイス]、第Ⅰ期長池公園指定管理を受託
- 2009年4月：「フュージョン長池公園」、第Ⅱ期長池公園指定管理を受託
- 2011年：「長池里山クラブ」、第22回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣賞を受賞
- 2011年：「フュージョン長池公園」、第27回都市公園コンクール 社団法人日本公園緑地協会会長賞（テーマ：多様な自然と人の賑わいの共存をつむぎ出す 八王子市長池公園）を受賞
- 2012年11月：「フュージョン長池公園」、第32回 緑の都市賞国土交通大臣賞（緑の拠点づくり部門）を[公財]都市緑化機構より受賞
- 2014年4月：「フュージョン長池公園」[NPO フュージョン長池・(株) 富士植木・(株) エーデン]、長池公園第Ⅲ期の指定管理を受託
- 2014年：「NPO フュージョン長池」、長池公園における希少植物保全活動－ノアの箱船プロジェクトの実践により、日本自然保護大賞（[公財]日本自然保護協会）に入選
- 2015年：長池ぼんぼこ祭りが20回目を迎える
- 2015年12月：環境省の生物多様性保全上重要な里地里山500選に長池公園が選定される
- 2017年4月：周辺80公園とともに、第4期目の長池公園の指定管理を開始。指定管理者は「フュージョン長池公園」から「ひとまちみどり由木」に組織改正

《長池公園の水辺景観と特徴的な自生植物》

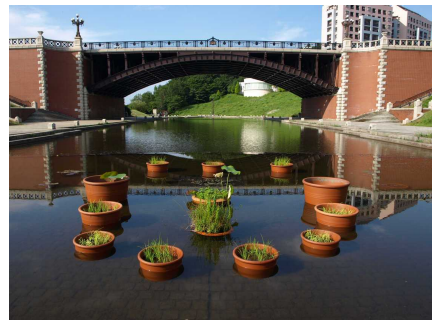
長池



築池



姿池と見附橋



カタクリ



タマノカンアオイ



マメザクラ



ノハナショウブ



クララ



ウスゲチョウジタデ



サワギキョウ



アギナシ



ミズオトギリ



オオニガナ



コマツカサススキ

